

叢書刊行の実現に向けて

彭 国 躍

言語学に限らず、研究分野の専門性が高いほど大衆性が乏しく、その成果の刊行も営利を目的とする多くの出版社に敬遠される傾向がある。言語研究センターの所員の中には、特定の専門分野に心血を注ぎ、こつこつと研究を積み重ねてきたベテランの研究者や、これから大きな目標を目指し基礎研究を固めていこうとする若い研究者が多くいる。われわれはこのような方々の研究をより強くサポートし、言語の理論研究と応用研究を含め、良質な研究成果を世に送り出すことを手助けする必要がある。

いま言語研究センターは、叢書刊行の実現に向けて努力している。この場を借りてセンターの取り組みと基本的な考え方を示し、所員の皆さんのご理解を求めたい。

言語研究センターは、現在65名の所員を有し、7つの共同研究グループを中心に活動している。アジア地域の日本語、中国語、韓国語、欧米地域の英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語などの諸言語に対する理論研究と応用研究を行っている。所員の言語研究活動をサポートすることは言語研究センターの主な役目の一つである。紀要『言語研究』はこれまでこのような役目を果たしてきた。これからも引き続き果たしていくだろう。しかし、専門性の高い研究成果を促進するためには、紀要だけでは不十分である。近年所員の中から叢書刊行について強い要望が寄せられた。

言語研究センターは、今後長期的に統語論、意味論、音韻論、語用論、社会言語学、対照言語学、応用言語学、言語文化人類学などの分野における研究成果を叢書として刊行していくことを計画している。毎年所員全員を対象に、共著、単著を問わず、叢書刊行の希望を募り、運営委員会で選考の上採否を決定するというプロセスで作業を進めていこうとしている。

『言語研究センター叢書』刊行の目的は以下の3点に集約される。

- (1) 所員の研究活動を促進し、良質な言語研究成果の公表を支援する。
- (2) 共同研究と個人研究を含め、所員全員の研究意欲を高める。
- (3) 2009年度の点検評価報告書に掲げられた「研究活動の活性化」と「研究成果公表の促進」という改善目標を達成する。

叢書刊行が実現されれば、次のような効果が得られることを期待している。

- (1) 学界に影響を与える専門性の高い研究成果が得られる。
- (2) 日本の言語学界に、神奈川大学の言語学研究の存在をアピールする。
- (3) 研究環境の改善を着実に進めることにより、成長し続けることを約束する「神奈川大学中長期計画」の目標達成に寄与する。

最後に、叢書刊行に向けて、皆さんのご理解と温かいご支援を賜りたいと思う。